

第8期片品村分別収集計画

平成28年7月1日

1. 計画策定の意義

豊かな自然の中で、便利で快適な生活を送りたいという願いは村民共通のもので

す。
しかし、現在の便利で物質的に豊かな社会は、大量生産・大量消費・大量廃棄という「使い捨て型」の生活様式によって支えられており、これを背景に日常生活から大量のごみが排出されています。

このため、どの自治体においても最終処分場の逼迫、廃棄物の不法投棄、ごみの焼却に伴う二酸化炭素の大量排出やダイオキシン問題などが顕在化し、処理経費の増大による自治体の財政圧迫も問題となっています。

こうした状況を受け、今後は循環型社会の形成に向けて、「リデュース・リユース・リサイクル」の3Rの取り組みを促進するとともに、ごみの排出抑制を目的に家庭ごみの有料化も検討し、徹底した分別とリサイクルに取り組みます。

本計画は、このような状況のなか、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（以下「容器包装リサイクル法」という）第8条に基づいて一般廃棄物の大半を占める容器包装廃棄物を分別収集し、最終処分量の削減を図る目的で、消費者・事業者・行政それぞれの役割を明確にし、具体的な推進方策を明らかにするとともに、関係者が一体となって取り組むべき方針を示したものである。

本計画を推進することによって、一般廃棄物を減量し、最終処分場を始めとする廃棄物処理施設の延命化を図るとともに、リサイクル型社会の実現を目指すものである。

2. 基本的方向

本計画を実施するに当たっての基本的方向を以下に示す。

- 地域特性を活かした廃棄物循環型社会づくりをすすめる。
- 村民参加型のごみ減量とリサイクル運動を積極的にすすめる。
- 村内関係者一体でのごみ排出抑制と資源再利用促進化の取り組みを進める。
- 最終処分場の延命化を図るため資源化、減量化を積極的に推進する。

3. 計画期間

本計画の計画期間は、平成29年4月を始期とする5年間とし、3年ごとに改定する。

4. 対象品目

本計画は容器包装廃棄物のうち、スチール製容器、アルミ製容器、ガラス製容器（無色・茶色・その他）、飲料用紙製容器、段ボール、ペットボトルを対象とする。

5. 各年度における容器包装廃棄物の排出量の見込み

(法第8条第2項第1号)

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
容器包装廃棄物	128.9 t	126.3 t	123.8 t	121.4 t	119.0 t

6. 容器包装廃棄物の排出の制御のための方策に関する事項

(法第8条第2項第2号)

容器包装廃棄物の制御のため以下の方策を実施する。なお、実施するにあたっては消費者、事業者、行政がそれぞれの立場から役割を分担し、相互に協力・連携を図る。

また、今後より効率的な容器包装廃棄物の分別収集に関する方策を進めるため所要調査等を行い、消費者、事業者の意見を積極的に反映させていきたい。

(1) 教育、啓発活動の充実

ごみ処理場の開放やポスター、パンフレット等により消費者、事業者に対しごみ排出量、処理経費、最終処分場の現状などを示し、容器包装廃棄物の分別収集計画の重要性、リサイクル推進の必要性などの認識を高める。さらに、副読本等を活用し、ごみの排出抑制、分別排出などの普及に関する啓発活動を積極的に進める。

(2) 過剰包装の抑制・買い物袋の持参の推進

商品の過剰包装を抑制し、簡易包装を求める意識を啓発し、買い物袋（マイバッグ）の持参を推進する。

さらに、リターナブル容器、再生資源を原材料として利用した製品の積極的な利用、販売を促進する。

(3) 家庭ごみ有料化の推進

ごみの減量・リサイクルの推進及び村民の費用負担の公平化を図るため、また、ごみについて考え今の生活様式を見つめ直す契機とするため、家庭ごみの有料化制度の導入を目指します。なお、有料化を導入するにあたっては、村民の合意を得ることが欠かせないため、積極的に村民への情報提供を進めます。

7. 分別収集をするものとした容器包装廃棄物の種類及び当該容器包装廃棄物の収集に係わる分別の区分（法第8条第2項第3号）

最終処分場の残余容量、処理施設の状況及び再商品化計画等を総合的に勘案し、分別収集をする容器包装廃棄物の種類を下表左欄のように定める。

また、村民の協力度、衛生施設組合の再生化施設、収集機材等を活用し、収集に係わる分別の区分は次表のとおりとする。

分別収集する容器包装の種類		収集に係わる分別の区分
主としてスチール製の容器 主としてアルミ製の容器		缶
主として ガラス製の 容器	無色のガラス製容器	ガラスびん
	茶色のガラス製容器	
	その他のガラス製容器	
主として紙製の容器であって飲料を充てんするためのもの（原材料としてアルミニウムが利用されているものを除く。）		飲料用紙パック
主として段ボール製の容器		段ボール
主としてポリエチレンテレフタレート（PET）製の容器であって飲料又はしょうゆを充てんするためのもの		ペットボトル

8. 各年度において得られる分別基準適合物の特定分別基準適合物ごとの量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込み（第8条第2項第4号）

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
主としてスチール製の容器	20.33t	19.93t	19.54t	19.16t	18.78t

主としてアルミ製の容器	12.94 t		12.69 t		12.44 t		12.19 t		11.95 t	
無色のガラス製容器	(合計) 10.51 t		(合計) 10.31 t		(合計) 10.10 t		(合計) 9.90 t		(合計) 9.71 t	
	(引渡) 10.51t	(独自処理) t	(引渡) 10.31t	(独自処理) t	(引渡) 10.10t	(独自処理) t	(引渡) 9.90t	(独自処理) t	(引渡) 9.71t	(独自処理) t
茶色のガラス製容器	(合計) 24.62 t		(合計) 24.14 t		(合計) 23.66 t		(合計) 23.19 t		(合計) 22.74 t	
	(引渡) 24.62t	(独自処理) t	(引渡) 24.14t	(独自処理) t	(引渡) 23.66t	(独自処理) t	(引渡) 23.19t	(独自処理) t	(引渡) 22.74t	(独自処理) t
その他のガラス製容器	(合計) 12.93 t		(合計) 12.67 t		(合計) 12.42 t		(合計) 12.18 t		(合計) 11.94 t	
	(引渡) 12.93t	(独自処理) t	(引渡) 12.67t	(独自処理) t	(引渡) 12.42t	(独自処理) t	(引渡) 12.18t	(独自処理) t	(引渡) 11.94t	(独自処理) t
主として紙製の容器であって飲料を充てんするためのもの（原材料としてアルミニウムが利用されているものを除く。）	0.86 t		0.84 t		0.82 t		0.81 t		0.79 t	
主として段ボール製の容器	41.82 t		41.00 t		40.19 t		39.40 t		38.62 t	
主としてポリエチレンテレフタレート（PET）製の容器であって飲料又はしょうゆを充てんするためのもの	(合計) 4.96 t		(合計) 4.86 t		(合計) 4.77 t		(合計) 4.67 t		(合計) 4.58 t	
	(引渡) 4.96t	(独自処理) t	(引渡) 4.86t	(独自処理) t	(引渡) 4.77t	(独自処理) t	(引渡) 4.67t	(独自処理) t	(引渡) 4.58t	(独自処理) t

9. 各年度において得られる分別基準適合物の特定分別基準適合物ごとの量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込みの算定方法

特定分別基準適合物等の量及び容器包装リサイクル法第2条第6項に規定する主務省令で定める物の量の見込み

= 国立社会保障・人口問題研究所、片品村人口変動率参照 =

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
4,578人 (対前年度比) 98.03%	4,488人 (対前年度比) 98.03%	4,400人 (対前年度比) 98.04%	4,313人 (対前年度比) 98.02%	4,228人 (対前年度比) 98.03%

10. 分別収集を実施する者に関する基本的な事項（法第8条第2項第5号）

容器包装廃棄物の種類		収集に係わる区分の分別	収集・運搬段階	選別・保管等段階
缶	アルミ スチール	缶類	クリーンセンターによる定期回収	クリーンセンター
ビン	無色ガラス	ビン類	クリーンセンターによる定期回収	クリーンセンター
	茶ガラス			
	その他のガラス			
紙	紙パック	紙パック	クリーンセンターによる指定日回収	クリーンセンター
段ボール	段ボール	段ボール	委託業者による指定日回収	委託業者
プラスチック	PETボトル	PETボトル	クリーンセンターによる指定日回収	クリーンセンター

11. 分別収集の用に供する施設の整備に関する事項（法第8条第2項第6号）

分別収容する容器包装廃棄物の種類	収集に係わる分別の区分	収集容器	収集車	中間処理
アルミ	缶類	指定の袋	パッカー車	リサイクルプラザ (選別・ 圧縮施設)
スチール				
無色ガラス	ビン類	コンテナ	トラック	
茶色ガラス				
その他のガラス				
紙パック	紙パック	指定の袋	トラック	
段ボール	段ボール		トラック	委託業者

PETボトル	PETボトル	指定の袋	トラック	ストックヤード
--------	--------	------	------	---------

1 2. その他容器包装廃棄物の分別収集の実施に関し重要な事項

(法第8条第2項第7号)

・ 村民や事業者の意見、要望を反映させ、容器包装廃棄物の分別収集を円滑かつ効率的に進めていくため、消費者や事業者、行政が協力して、分別収集促進体制を整備するように指導する。

また、自主的な地域リサイクル活動を推進していくため、衛生自治会や婦人会等の各種団体を活用する。

なお、現在、学校などによる集団回収が進んでいる飲料用紙製容器については、引き続きこれらの団体が分別収集を実施することとする。

・ 毎年度、分別収集計画記載事項の実績を確認、記録し、3年後の計画改定時には、その記録を基に事後評価を行うこととする。